



平和首長会議ニュース

2020年11月 / 第131号

平和首長会議加盟都市数

165 か国・地域 7,968 自治体

**加盟都市数 10,000 都市を
目指しています！**

日本国内加盟自治体数：1,733

(2020年11月1日現在)

平和首長会議の最新ニュースはこちらでチェック！

ウェブサイト:

<http://www.mayorsforpeace.org/jp/index.html>

フェイスブック:

<https://www.facebook.com/mayorsforpeace>

ツイッター:

<https://twitter.com/Mayors4Peace>

「いいね！」をお待ちしています。

<<今号の内容>>

- ◆シンポジウム「核兵器禁止条約と市民社会の果たす役割」を開催しました
- ◆核兵器禁止条約の発効が確定しました
- ◆未加盟都市への呼び掛けに関する好事例を紹介します！
- ◆平和首長会議加盟自治体数: 165 か国・地域 7,968 自治体
- ◆平和首長会議行動計画(2017年-2020年)に掲げる取組の実施にご協力ください
- ◆平和を希求する心を育てる取組の好事例を募集しています
- ◆被爆樹木二世の苗木の配付事業のご案内
- ◆ヒロシマ発平和関連ニュース(中国新聞社ヒロシマ平和メディアセンター提供記事)
- ◆「ヒバクシャ国際署名」への平和首長会議の賛同・協力について

■シンポジウム「核兵器禁止条約と市民社会の果たす役割」を開催しました

核兵器禁止条約発効確定(P.2~3に関連記事)を受け、11月3日にシンポジウム「核兵器禁止条約と市民社会の果たす役割～核兵器廃絶へ向かうこれからの道のり～」を、平和首長会議、ピースボート、特定非営利活動法人ANT-Hiroshimaが共同で開催しました。

始めに、平和首長会議会長である松井一寛広島市長が挨拶し、「核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)」の国際運営委員である川崎哲氏による基調講演に続き、平和首長会議の小泉崇事務総長、広島大学平和センターの川野徳幸センター長、特定非営利活動法人ANT-Hiroshimaの渡部朋子理事長の3人がプレゼンテーションを行い、最後に会場の参加者との質疑応答がありました。

松井会長は、「核兵器禁止条約の発効が市民社会における価値観の転換を促す重要なマイルストーンとなる事を期待している。」と述べました。また、小泉事務総長は「平和首長会議のこれまでの活動とこれから」について、「2020ビジョン(核兵器廃絶のための緊急行動)」の下で行ってきたこれまでの取組と、2017年に策定した「行動計画(2017年-2020年)」を紹介し、引き続き国際世論の醸成により、核兵器廃絶に向けた為政者の政策転換を後押しする環境づくりを推進していくと発言しました。



▲ 松井会長の挨拶



▶ 小泉事務総長の発表

=====

■核兵器禁止条約の発効が確定しました

=====

●公開書簡の発出

10月24日、核兵器禁止条約の批准国が50か国に達し、同条約の発効が確定になりました。このことを受けて、平和首長会議では、この歴史的な出来事を歓迎する一方で、今後、同条約を包括的で実効性の高いものとし、核兵器廃絶への推進力としていかなければならないと訴える公開書簡を作成し、すべての国連加盟国、国連関係者及び平和首長会議の全加盟都市へ発出しました。

公開書簡は、平和首長会議ウェブサイトでもご覧いただけます。

▼原文(英語):

http://www.mayorsforpeace.org/english/statement/openletter/201025_openletter.html

▼日本語訳:

http://www.mayorsforpeace.org/jp/statement/openletter/201025_openletter.html

各自治体において、様々なツールを活用してこの公開書簡を広く市民の方々にお伝えいただきますようお願いします。

●市民との協働イベント等の開催

(広島市)

核兵器禁止条約の発効が確定したことを受けて、10月25日に平和首長会議と市民との協働イベントが開催されました。

原爆ドーム前に被爆者や市民約200人が集い、同条約の発効確定を共に祝うとともに、今後日本を含め、批准国を広げていくために頑張っていくことを誓い合いました。

松井会長はこのイベントに出席し、「『こんな思いを他の誰にもさせてはならない』という被爆者の方々の強い思いと、核兵器は『絶対悪』であるとの市民社会の受け止めが国際社会を動かし、条約の発効として結実したということ、歴史的事実として忘れてはならない。」というメッセージを発信しました。



▶市民との協働イベントの参加者

同日の夕方には、平和首長会議が原爆死没者慰霊碑前で青少年ピースキャンドルの集いを開催しました。このイベントには、松井会長と小泉事務総長のほか、核兵器廃絶を訴える署名活動「核廃絶！ヒロシマ・中高生による署名キャンペーン」の参加高校生や、平和記念公園で外国人観光客に向けてガイド活動を行っているユースピースボランティア約30人が参加しました。

始めに松井会長が、「今後の活動に向けた決意を述べる署名キャンペーン参加高校生やユースピースボランティアの行動によって、核兵器のない世界こそがあるべき姿であるということが世界の人々の共通認識となり、日常生活の中で平和を追求する行動に繋がることを願っている。」と述べました。



青少年ピースキャンドルの集いの参加者



原爆死没者慰霊碑前で挨拶する松井会長



青少年による発表

青少年らは、キャンドルの火を灯しながら慰霊碑を参拝し、原爆死没者に長年待ち望んできた核兵器禁止条約の発効が確定したことを報告しました。報告の中で彼らは「被爆者の『こんな思いを他の誰にもさせてはならない』という強い思いを広めるために世界中の市民が行ってきた活動が実を結び、核兵器禁止条約の発効が確実となったことは大変嬉しいことですが、一方で、これから核保有国を含め国際社会が着実に核兵器廃絶へと前進していくために、私たち若い世代が何をすべきかという大きな課題を突きつけられたと考えています。」と述べ、今後も核兵器のない平和な世界を目指して、ヒロシマの心に共感する人の輪を広げていくために、仲間と共に精一杯活動していくことを誓いました。

▼「青少年ピースキャンドルの集い」の動画・挨拶文

http://www.mayorsforpeace.org/jp/whatsnew/news/201025_news.html

（長崎市）

条約の発効確定を記念して、10月25日に市役所本館と原爆資料館の玄関に看板を設置し、条約の発効確定を歓迎しました。また、「ヒバクシャ国際署名」長崎県民の会は同日平和公園で集会を開催し、被爆者や高校生ら約200人と一緒に喜びを分かちあいました。

翌日26日には、市役所本館前の広告塔電光掲示板で条約発効までのカウントダウン点灯式を開催し、市民等約100人が見守る中、条約発効までのカウントダウンが始まりました。



▲ 設置した看板



▲ 平和公園での集会



▲ カウントダウン点灯式

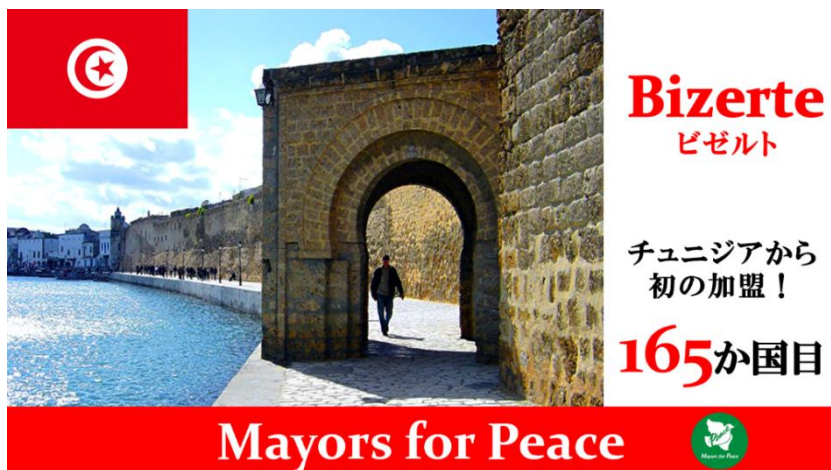
=====

加盟拡大をより一層推進するため、未加盟都市への呼び掛けにより加盟につながった好事例を紹介します。

■平和首長会議加盟自治体数: 165 か国・地域 7,968 自治体

11月1日付で、7自治体が加盟し、加盟自治体数は7,968となりました。加盟促進に関する皆様のご協力に心から感謝申し上げます。新たに加盟した国・地域と内訳は以下のとおりです。

国名	新規加盟 都市数	合計	備考
韓国	1	15	ノグンリ国際平和財団の呼び掛けにより加盟。
コンゴ民主 共和国	1	2	同国から 10 年ぶりの加盟。
チュニジア	1	1	オウニ駐日全権公使と同国地域問題・環境省の呼び掛けにより 同国から初の加盟。
ドイツ	3	700	副会長都市及びリーダー都市のハノーバー市の呼び掛けにより 加盟。
英国	1	83	副会長都市及びリーダー都市のマンチェスター市の呼び掛けに より加盟。



▼11月1日付新規加盟自治体一覧(PDF)

http://www.mayorsforpeace.org/data/pdf/03_newmembers/2020/newmembers2011_jp.pdf

▼加盟都市数一覽(国・地域別)

http://www.mayorsforpeace.org/data/pdf/01_monthly Updating/07_membership_by_country_jp.pdf

=====

■平和首長会議行動計画(2017年-2020年)に掲げる取組の実施にご協力ください

=====

2017年8月に長崎市で開催された第9回平和首長会議総会において、「平和首長会議行動計画(2017年-2020年)」が策定されました。この行動計画に掲げられた、世界恒久平和の実現に向けた国際世論を醸成・拡大するための取組の推進にご協力ください。

▼「平和首長会議行動計画(2017年-2020年)」(平和首長会議ウェブサイト) :

http://www.mayorsforpeace.org/jp/report/meeting/data/9th_meeting/Action_Plan_2017-2020_J.pdf



なお、2019年11月、ハノーバー市において開催された第11回平和首長会議理事会において、2020ビジョンの最終年である2020年に、行動計画に掲げている以下の3項目に重点的に取り組んでいくことが決定されています。

- ① 「核兵器禁止条約」の発効等の平和首長会議の目標の達成に向けた加盟都市の拡大
→具体的な取組については[こちら](#)
- ② 次代を担う若い世代の意識啓発を目指す平和教育の実施
→具体的な取組については[こちら](#)
- ③ 広島・長崎への受け入れを組み込んだ青少年「平和と交流」支援事業等の充実
→具体的な取組については[こちら](#)

=====

■平和を希求する心を育てる取組の好事例を募集しています

=====

平和首長会議事務局では、自治体、学校、NGO等、様々な実施主体による平和教育の取組事例を「平和首長会議ニュース」やウェブサイトで紹介することにより、そうした活動の広がりを促進していくため、各加盟都市において実施されている平和を希求する心を育てる取組の好事例を募集しています。

これまでにお寄せいただいた取組事例をウェブサイトに掲載しています。他都市の事例を参考にして、より多くの都市に平和教育の取組を広げていただければ幸いです。

▼平和を希求する心を育てる取組の好事例の紹介コーナー(平和首長会議ウェブサイト) :

<http://www.mayorsforpeace.org/jp/ecbn/effort.html#section10>

また、事例募集は引き続き行っておりますので、随時情報提供をお願いいたします。いただいた取組事例は随時ウェブサイトでご紹介する予定です。

▼書類提出・問い合わせ先:

Email: rentai@pcf.city.hiroshima.jp

TEL:082-242-8872 FAX: 082-242-7452

=====

■被爆樹木二世の苗木の配付事業のご案内

=====

平和首長会議では、第9回総会において策定された行動計画に沿った取組として、被爆樹木二世の苗木の配付を行っています。小・中学校の平和学習での活用や公共施設の改修にあわせた記念植樹など、平和のシンボルである被爆樹木二世の育成を通じて、市民の平和意識の醸成に取り組んでいただきますよう、ご検討をお願いします。

被爆樹木二世の苗木の配付を希望される場合、所定の申請書をEメール又はFAXにて事務局までお送りください。

※この事業は、通年でやっているため特に申請期限はありません。また、来年度以降も継続して実施しますので、来年度以降の苗木の受け入れについても、是非ご検討いただければ幸いです。

▼Email: rentai@pcf.city.hiroshima.jp

▼TEL: 082-242-8872 FAX: 082-242-7452

▼被爆樹木二世の苗木の配付申請書、事業紹介パンフレット印刷用データ等のダウンロード(平和首長会議ウェブサイト):

<http://www.mayorsforpeace.org/jp/ecbn/effort.html#section04>



=====

■ヒロシマ発平和関連ニュース (連載第73回)

=====

[中国新聞社ヒロシマ平和メディアセンター提供記事]

=====

平和記念公園にある国立広島原爆死没者追悼平和祈念館で、企画展「時を超えた兄弟の対話—ヒロシマを描き続けた四国五郎と死の床でつづった直登の日記—」が開かれています。会期を2カ月延ばし、来年2月末まで続ける予定です。

画家の四国五郎さん(1924~2014年)は、徴兵され旧満州(中国東北部)で敗戦を迎え、過酷なシベリア抑留を体験。その間に、最愛の弟を原爆で失いました。日本が米軍を中心とする占領統治下にあった時代から、絵や詩を通して反戦反核を一貫して訴え続けました。表紙絵を担当した詩人峠三吉の「原爆詩集」の出版、絵と反戦詩のポスターをゲリラ的に街角に張り出す抵抗運動「辻詩」などは、まさに当時の言論統制をかいくぐった活動でした。四国さんが挿絵を描いた1979年出版の「絵本 おこりじぞう」は名作として読み継がれています。

とはいえ新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、世界各地から広島を訪れることは、いまだ困難な状況です。そんな中、米オハイオ州オーバリン大のアン・シェリフ教授が四国さんの作品と生涯を伝える英語のウェブサイトを開設しました。作品約50点を、詳しい解説付きで紹介しています。

▼ウェブサイトURL:

<http://scalar.oberlincollegelibrary.org/shikoku/index>

10月、ついに核兵器禁止条約の批准国が50に達し、来年1月22日の条約発効が決まりました。被爆者や、被爆体験を受け継ぐ被爆地の市民は心から喜んでます。この条約は、戦争に強いられた原爆犠牲者、生き残って辛酸をなめてきた被爆者、さらには残された遺族それぞれの苦しみを決して繰り返させない、という国際社会の決意が原点となっています。四国さんの作品は、「あの日」とそれからの苦しみがどんなものだったのか、年月と地理的な距離を超えて見る者の想像力をかき立てます。

関連記事は次のアドレスで読めます。

核廃絶署名1200万筆超 活動延長 1月国連提出へ

<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=101295>

爆心地座標 詳細に解明 広島大元助手 旧島病院 中庭付近

<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=101399>

ヒロシマの悲願へ光明 被爆者ら「声出し続ける」 核兵器禁止条約
<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=101694>

国方針「変わらず」 加藤氏 オブザーバーも慎重 核兵器禁止条約
<http://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=101728>

=====

■「ヒバクシャ国際署名」への平和首長会議の賛同・協力について

=====

平和首長会議では、第9回総会において策定された行動計画に基づき、「幅広い層の市民の平和意識の啓発」を目的として「『ヒバクシャ国際署名』と連携した『核兵器禁止条約』の早期締結を求める署名活動」を展開しています。

平和首長会議に寄せられた「『核兵器禁止条約』の早期締結を求める署名」と、「ヒバクシャ国際署名」で集められた署名を共に国連関係者に提出することとしています。

▼ヒバクシャ国際署名ウェブサイト:



*** 本メールニュースに関するご意見、お問合せ等は下記までご連絡ください ***

平和首長会議事務局

〒730-0811 広島市中区中島町 1-5

(公財)広島平和文化センター 平和首長会議・2020 ビジョン推進課

TEL: 082-242-7821 FAX: 082-242-7452

▼Email: mayorcon@pcf.city.hiroshima.jp

【平和首長会議公式SNSアカウント】

〈ツイッター〉 

<https://twitter.com/Mayors4Peace>



〈フェイスブック〉 

<https://www.facebook.com/mayorsforpeace>



フォロー、拡散、「いいね」、コメントをお願いします！